

2015年6月29日

2015年度 公益財団法人東日本鉄道文化財団 地方文化事業支援 「地方文化事業支援認証式ならびに贈呈式」開催について

公益財団法人東日本鉄道文化財団は平成5年度より、JR東日本管内各地の貴重な文化遺産や伝統芸能などの保全と継承を図るため、支援を行ってまいりました。このたび、「鋸山、房州石の歴史的遺構修復事業」（富津市・3年連続3回目）、「遠見岬神社境内整備事業」（勝浦市・初）に対して支援を行うことが決定しました。

1 東日本鉄道文化財団による「文化財保存会」への認証式（助成通知書贈呈）について

(1) 鋸山、房州石の歴史的遺構修復事業

【日 時】2015年7月8日（水）14時30分～15時30分

【場 所】ザ・フィッシュ

【事業内容】石切場遺構の修復

事業3年目となり支援最終年となります。最後の元締めが房州石を採取していた石切場近くの休憩所付近を中心に整備を行います。手すり、階段や石を切り出した痕跡をはじめ、石切場の劣化を修復し後世に継承して行きます。

【支援金額】年額100万円

【主な出席者】鋸山歴史遺産保存会会長

富津市建設経済部長

公益財団法人東日本鉄道文化財団事業部長

東日本旅客鉄道株式会社執行役員千葉支社長



石切場

～富津市「鋸山、房州石の歴史遺構」について～

鋸山の房州石切丁場は、江戸時代後期から採石業が営まれ、昭和60年まで二百余年の歴史があります。最盛期には年間56万本の房州石が産出され、江戸城下の街づくりやお台場の整備、横浜港の建設などにも使われ、金谷は町民の8割が石切に携わる石の町として栄えていました。

現在も鋸山の景観は奇景として知られ、碎石場へ続く道はハイキングコースになっておりますが、碎石が終了した後は風化が進んでいる状態です。

房州石を運んだ麓まで続く車力道（女性が石を荷車に載せて運んだ道）、石を滑らせて降ろしたトイ道、鋸山には当時の石切の様子を物語る魅力が今もなお数多く存在しています。かつての石の町として、貴重な産業遺産として、全国の石の研究者や専門家にも注目されています。

2 東日本鉄道文化財団による「文化財保存会」への贈呈式（助成通知書贈呈）について

(1) 遠見岬神社境内整備事業

【日 時】2015年7月15日（水）11時00分～12時15分

【場 所】遠見岬神社

【事業内容】参道階段、周辺の修復

今年度、初めて支援いたします。60段の石段部分は劣化によりひび割れや段差が生じているため改修いたします。また、階段両脇に朱塗りの灯籠を設置します。

【支援金額】年額400万円

【主な出席者】遠見岬神社境内整備事業奉賛会会長

勝浦市長

公益財団法人東日本鉄道文化財団副理事長

東日本旅客鉄道株式会社執行役員千葉支社長



遠見岬神社参道階段

～勝浦市「遠見岬神社」について～

遠見岬神社は房総半島に技術と文化をもたらした天^{あめの}富^{とみの}命^{のみこと}をお祀りする古社であり、歴史は初代天皇、神武天皇の時代までさかのぼる。天^{あめの}富^{とみの}命^{のみこと}は四国から房総に渡り、房総半島をはじめとして関東地方の発展に寄与した。江戸時代になると勝浦は、「勝浦三町江戸勝^{かつうらさんちやうえどまさり}」と例えられるほどの繁盛に至る。

その勝浦の市街地を見渡すことができる遠見岬神社は勝浦のシンボルとなっている。現在は街全体が雛人形に彩られる「かつうらビッグひな祭り」の会場のひとつとなっており、参道の大階段に並べられる雛人形は圧巻である。

3 東日本鉄道文化財団の地方文化事業支援について

千葉県内においては、香取市の「佐原の山車」、いすみ市の「行元寺」「飯縄寺」、南房総市の「高家神社」、富津市の「車力道」（鋸山、房洲石の歴史的遺構）の文化財保存を支援してまいりました。



佐原の山車保存支援事業



行元寺支援事業



飯縄寺支援事業 鐘楼堂・山門・天井画



高家神社支援事業



車力道支援事業